

当院では、食道～胃、十二指腸を観察する上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)と、大腸を観察する大腸内視鏡検査(大腸カメラ)を行っています。

内視鏡検査とは、先端に小型カメラ (CCD) を内蔵した太さ1cm 程の細長い管を口あるいは肛門より挿入し、食道、胃、十二指腸や大腸の内部を観察し、時には治療を行うものです。

## 【検査種類】

---

### 上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)

---

上部消化管とは食道・胃・十二指腸を指し、口または鼻から内視鏡を挿入し、これらの部位を観察します。昔から「胃カメラ」と言われてきたものです。経口内視鏡(口から入れる内視鏡)、経鼻内視鏡(鼻から入れる内視鏡)に分かれます。

---

### 経鼻内視鏡装置(鼻からの胃カメラ)

---

患者さんの苦痛を出来るだけ低減するために、経鼻内視鏡にオリンパス社の EVIS LUCERA 極細経鼻スコープを採用しました。  
また、高精細な画像が NBI(Narrow Band Imaging: 狭帯域光法) 観察を行なうことにより、小さな病変を見逃さず検査を行なうことができます。

---

### 経口内視鏡装置(口からの胃カメラ)

---

口からの内視鏡も行っていきます。  
一般的には鼻からの方が苦痛を低減されますが、経口カメラも近年進化しており、苦痛低減のための細径かも進んでいます。  
患者さんの症状によって、経鼻か経口か、より良い方法で検査をおこないます。

---

### 大腸内視鏡検査(大腸カメラ)

---

大腸内視鏡検査では、大腸(結腸と直腸)と小腸の一部を観察するために肛門から内視鏡を挿入し、これらの部位に発生したポリープやがん、炎症などを診断します。組織の一部をとって顕微鏡で調べることがあります(生検)。